

地域協議会による 傾斜地の荒廃農地を活用した「啓翁桜」の団地化

にしかわまち
〔山形県西川町〕

新規就農	企業参入	6次産業化	農地中間管理機構
農福連携	鳥獣害対策	地域・集落の共同活動	その他

1. 地域農業の状況

- 西川町は、山形県のほぼ中央に位置し、北部には月山、南西部には朝日連峰等が連なる。
- 吉川地区は、町の中でも特に稲作が盛んな地域であるが、山間部では町内最大の啓翁桜団地が広がっている。
近年は高収益作物への転換の流れから、生産性や収益性の高い啓翁桜の大規模団地化が進められている。
- また、同地区には啓翁桜の促成・集出荷施設もあり、作業性・利便性ともに高い地域である。



啓翁桜

- 同地区では、もともとタバコやサクランボなどを栽培していたが、耕作者の高齢化等により荒廃が進み、後継者不足が課題であった。
また、同地区は傾斜地であるため、作業性の悪さも課題であったが、啓翁桜は傾斜地の方が栽培に適することから、最適地とされている。

活用した 支援策	H30	農地耕作条件改善事業（国）
	R1～R2	農地中間管理事業
	R3	農山漁村振興交付金（農山漁村発イノベーション対策）

2. 地区概要

取組主体	西川町	地区名	吉川（よしかわ）地区
再生面積	3.0ha	取組年次	平成30年4月～令和3年3月
作付作物	啓翁桜（けいおうざくら）	販路	首都圏を中心に出荷

3. 取組内容及び効果

荒廃農地を再生・団地化し、高収益作物である啓翁桜に転換

- 西川町の特産品は、山形県が日本一の出荷量を誇る「啓翁桜」であるが、その更なる生産拡大のため、町全体として団地化に取り組むことを決定。
町、JA、農地中間管理機構、県などで構成する支援チーム「西川町園芸団地化実践協議会」を設立し、栽培条件等を踏まえた団地化地区の選定検討を行った。
- 検討の結果、地域の耕作者の高齢化等により荒廃農地化が進んでおり、新たな担い手に農地を集積する機運が高まっていた吉川地区を団地化することに決定。
地権者等への農地中間管理事業の説明は協議会が行い、町が農地耕作条件改善事業を活用するというチームワークにより、荒廃農地3.0haを再生した。
- この結果、啓翁桜を生産する担い手に農地が集積・集約化されるとともに、啓翁桜の団地化と生産組合の法人化を実現。
引き続き、町では「販売額1億円」を目標に、啓翁桜の一大産地を目指した更なる生産拡大に取り組んでいる。

